

～令和5年12月静岡県議会定例会における質問～

質問者：伊藤 和子 議員

質問日：令和5年12月6日（水）【2番目】

会派名：ふじのくに県民クラブ

項目	<p>1 知事の政治姿勢について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和6年度当初予算編成と事業見直し
答弁者	知事
質問要旨	<p>県は、「新ビジョン後期アクションプラン」に基づく取組を着実に推進すること、そして、令和7年度末の収支均衡に向けて、財源不足額の圧縮に取り組むとともに、将来にわたって安心な財政運営を堅持することを基本方針とした、令和6年度当初予算編成要領を公表した。</p> <p>知事が掲げる富国有徳の「美しい“ふじのくに”」づくりの実現のため、これらの取組を着実に進める必要がある一方、現時点の収支試算では、524億円の財源不足額が見込まれ、大変厳しい状況にある。</p> <p>私たちふじのくに県民クラブは、本県の喫緊の課題である財政健全化の取組を一層進めることを目的として、個別に指定する見直し対象事業については、成果検証やより効果的な手法への転換などの取組を短期的に求めるよう、知事に提言を行った。知事には、民間が取り組むべきことは民間に委ねる、費用対効果を検証し、無駄な事業はなくすという観点で、しっかりと見直しをしていただくよう要望する。</p> <p>人口減少とそれに伴う経済・産業活動の縮小により、地方公共団体の税収入は減少する一方で、高齢化の進行から社会保障経費の増加が見込まれており、今後の財政運営はさらに厳しさを増していくことが予想される。県が抱える課題は多々あるが、予算編成において財源は限られており、有効に活用する必要がある。人口減少や激甚化する自然災害など、喫緊の課題への対応に予算を配分することはもちろんのこと、将来をしっかりと見据え、成長産業の育成や教育の充実などに積極的に投資を行うことも、持続可能な静岡県を創る上では重要と考える。</p> <p>厳しい財政状況で財源が限られる中、事業の見直しに関する我が会派の提言をどのように受け止め、令和6年度当初予算編成にどのように反映していくのか、県の考えを伺う。</p>

<答弁内容>

伊藤和子議員にお答えいたします。私の政治姿勢についてであります。

令和6年度当初予算編成と事業見直しについてでございますが、来年度の収支試算につきましては、地方の一般財源総額が据え置かれる中、社会保障関係経費の増加や、金利上昇に伴う公債費の増加などによりまして、昨年度を上回る524億円の財源不足が見込まれるなど、大変厳しい財政状況が見込まれております。

こうした状況を踏まえ、来年度の当初予算編成に先立ちまして、全庁的に、部局長のリーダーシップの下、これまで以上の歳入・歳出の見直しに、聖域なく取り組んできたところであります。

加えて、来年度の当初予算を編成するに当たりましては、これまでと同様に、成果や実績を精査した上で、より効率的かつ効果的な事業となるよう検討する必要があります。

今般、ふじのくに県民クラブの皆様から頂戴いたしました御提言のうち、短期的な見直し項目につきましては、こうした過程において、役割分担や事業の成果を十分に検証した上で、より効果的な手法に転換するなど、順次見直しを進めているところであります。その結果を、来年度の当初予算にしっかりと反映させてまいります。

中長期的な見直し項目につきましては、複数年度での検討を想定し、PDCAサイクルの中で、適切に検討してまいります。御指摘の研究開発プロジェクトにつきましては、社会情勢の変化等を踏まえ、成果や費用対効果をしっかりと検証してまいります。また、県有施設のファシリティマネジメントにつきましても、将来のあるべき姿を見据えた上で、バックキャストの視点で、県全体の施設総量の適正化を進めてまいります。

後期アクションプランは折り返しを迎え、来年度は3年目となります。これまでに蒔いた施策の種が芽を出し、花を咲かせ、県民の皆様がその果実を実感としていただけるよう、本県の発展につながる予算を編成してまいります。